



2

1.インタビューは江口組さんの本社にて。あっという間の2時間でした 2.「人生意気に感謝」江口さんのお父様も大切にされたお言葉です 3.江口組本社、その奥に見えるのがクリエイション江口 4.工夫を凝らしている会社パンフレット。個が出ているので見ていて非常に楽しい！ 5.ネクタイを美しく締め撮影スタートの瞬間



5



3



4

江口組を人に やらせるのは とにかくイヤだった

すこしで完済をすることが出来たのです。でもそういったことが出来たのは、祖父のお陰もありました。技術力が高く、人との繋がりを作るのがとにかく上手だった祖父のおかげで、父にはたくさんの協力者がいたので、この江口組の大仕事をやりきることが出来たのです。江口組の礎をつくった曾祖父、祖父。そして花開かせた父。それぞれの時代で必要とされている能力は違いますが、時代に求められている力をもった先代たちのおかげで、4つ目のバトンが私にまわってきました。

私で4代目、自宅も会社のすぐ近くにあるので幼少のころから「継ぐものだと思っていたんですよ」と言われますが、実は継ぐ気はまったくありませんでした。父からも継ぐように言われたことは一度もありません。家業をどうするのか？はじめて考えたのが大学進学するとき。最初で最後の家族会議が行われたのですが、進路をどうするのか？と両親に聞かれたとき「土木科」に行きたいと答えている自分がありました。「土木科に行くということはそういうことなのか？」と聞かれ「そういうことです」。18歳のころには家業を継ぐ気持ちに変わっていました。私には妹が2人いるのですが、私が継がなかった場合は妹の旦那さんが継ぐ可能性がある。なにかそれはイヤだなと直感的に思ったのです。

なぜイヤと思ったのか？と言われるとうまく答えられないのですが、江口組を人にやらせるのはとにかくイヤだった。その時に「本当にやるのか？」と3回も4回も父に念押しされて、やりますと自分の口で答えたので逃げ道もなくなり(笑)事業承継を見据えて中央大学理工学部土木学科に進学しました。

大学へ進学し上京、寮に入ったのですがもう楽しくて仕方ありません。親の目もないので何していても自由。寮の友達と毎日朝まで遊んでいました。だから勉強も最初からはとんどしていません。1、2年と遊びまわっていたら知らない間に親に「息子さんこのままなら留年しますよ」という通知が行ったようで、父の逆鱗にふれました。何のために学校にいったのか？自分はこれから何をしようとしているのか？そこでようやく目が覚めて3年からは猛勉強。朝8時から夜20時までずっと勉強。実験にわけくれ無事4年で卒業し、大阪の建設土木会社に入りました。なぜその会社なのか？という父の紹介です。父は180度変わりました。

それまでは家業を継ぐようにとかは一切言わなく、それ以外も何かを指示されることはほぼありませんでした。でも私が継ぐと言った瞬間からいろいろなことを言うようになった。言葉には出さなかったものの、継ぎたいと私に言っていたのでしようし、嬉しかったのだと思います。いろいろな話をしてくれる存在に変わっていました。就職した会社ではいろいろな現場を回りました。工事現場ってプレハブが

事務所になることが多いのですが、その横に部屋があるのですがこれが薄汚い。四畳半くらいの部屋で、お風呂もありません。簡単なシャワーだけ浴びてみんなでご飯たべて寝る。外出するといえばコンビニくらいしかなく、ほぼ軟禁状態で長期間すごしたり…。完全ブラックの職場ですが、工事現場とはどういうものなのか？を体感できると皆さんの経験を3年させてもらって26歳のときに家業に戻りました。

この会社には未来がないと多くの社員が 辞めていきました

戻って最初の仕事が山奥の現場。名もない山を伐採し道路をつくる仕事だったのですが、最初から上手いきません。誰も私のいうことを聞いてくれません。現場監督の私は26歳。現場で動いているのははるか年上の経験値の豊富な方ばかり。しかもイカつめの強面のやばそうな感じ(笑)。江口組が監督の仕事で私の名前は江口。そういうことなのねと風当たりも強く、なかなか思うように進みません。いきなり先制パンチをくらったのですが、思ったよりも江口組はちゃんとしているなあと思つたのが、戻った最初の印象です。大阪の会社は大きかったのですが、思っていた以上に江口組も様々な仕組みが整備されていて父のすこさを実感しました、しかし困ったのが売上。私が家業に戻ったのが2003年、前年2002年が過去最

